

東建パブリニュース

平成30年5月2日

経営管理本部 広報IR室

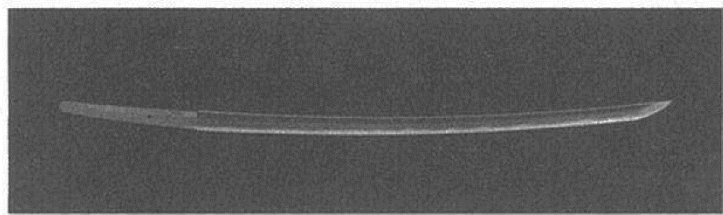
《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成30年4月27日 産経新聞 P.19

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

柔道創始者・嘉納治五郎 没後80年 講道館に「刀」献納



今年、柔道の創始者、嘉納治五郎の没後80年に当たる。28日には、嘉納を「徳会」が東京都内で開かれ、特別に制作された日本刀が全日本柔道連盟のオフィシャルパートナーである東建コーポレーション（本社・名古屋市中区）から総本山の講道館に献納される。全

日本選手権では刀を使った「極の形」も披露される。

柔道と刀の関わりは深い。講道館には嘉納家に伝わる守り刀の備前長船盛重が所蔵されている。古くは、木剣でなく刀剣による形が行われた時代があったといい、昭和4年の天覧武道大会では、優勝者に日本刀が授与された記録もある。

今回献納されるのは、嘉納の没後80年に合わせて制作された刀の写真（東建コーポレーション提供）、脇差、短刀の3振り。刀工の最高位である「無鑑査」の称号を持つ上林恒平氏（69）の作だ。

上林氏は献納用とは別に、形の演技用に3振りを制作。全日本選手権では決勝の前に披露される「極の形」で使われる。刀を持つ側の「受」を演じる南保徳双六段は「全日本選手権という舞台でもあり、これまでにない緊張感がある」と話す。

以上